

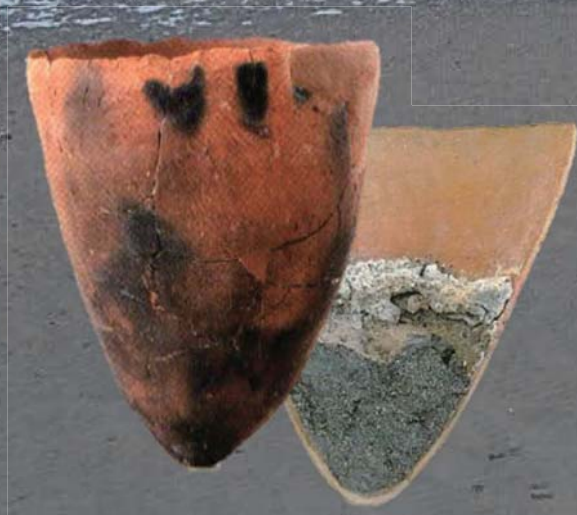
日本列島における 製塩技術史の解明 I

—縄文から古代まで拡張して見えるもの—

塩作りの技術伝統はどこまで遡るのか

どの様な**塩**だったのか

塩作りからみえる社会とは



2019年10月20日(日)

明治大学グローバルホール 9時受付開始 5時閉会（定員120名）
配布資料あり（無償） 事前受付なし
連絡先03-3296-1873 資源利用史研究クラスター

ごあいさつ

本シンポジウムは明治大学資源利用史研究クラスターが推進する研究の一環として、日本列島における製塩技術史の解明を共通テーマとして縄文時代から古代までの塩を研究する各地の研究者が一堂に会して各時代の中で塩や製塩の意義を考えます。

今回は、これまでの製塩研究の歴史を振り返るとともに、縄文時代から古代に至る製塩遺跡の研究成果を確認し、縄文時代土器製塩の技術と起源について、古代では木簡文書をはじめとした古代文献史料が明らかにする塩業との関係性について考えます。これまでの製塩研究は各時代や地域を単位として進められてきましたが、今回は時代や地域を問わず、資源利用史の解明という視点から時代を読み解くことを目的としています。

どうぞ、奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。

明治大学資源利用史研究クラスター代表 阿部芳郎

日 程

受付開始 9:00

開 演 9:30

発表1	製塩研究の歩み	岩本正二
発表2	製塩研究の課題と展開	阿部芳郎
発表3	東北地方—里浜遺跡(縄文)・江ノ浜貝塚(古代)	菅原弘樹
発表4	関東地方—霞ヶ浦周辺における縄文時代製塩遺跡の構造と理解	高橋 満
発表5	東海地方—松崎遺跡(古墳・古代)	川添和暁
発表6	四国地方—宮ノ浦(みやんな)遺跡(古墳)	槇林啓介
発表7	文献史料から見た塩とその使用量—古代食の復元から—	三舟隆之
発表8	文字史料からみた古代の塩	馬場 基

討 論

閉 会 17:00

明治大学グローバルホール 9時受付開始 5時閉会 (定員120名)

配布資料あり(無償) 事前受付なし 当日受付のみ

連絡先03-3296-1873 明治大学資源利用史研究クラスター